

森の日記

2025年11月9日～2026年3月15日まで

by 迷鳥キツキ

11月9日は久しぶりにエゾリスの会の活動が行われました。春先のカエルの卵調査の際に、池の周りの土を踏み固めないように、また池に至る道を決めてその周りの植生を傷めないようにすることが目的でした。間伐で得られた大きな丸太を池の周りに数カ所置いてその丸太の上からだけ観察するようにし、また、池に至るルートを決めて、細い丸太を幅1メートルほどの道の両側に置き、その間だけを通るようにしました。朝はかなり冷え込み、集合地点の朝9時の気温はまだ0.7℃しかありませんでした。深さ30cmでの地温は6.7℃ほどで、地下は暖かいことがわかりました。



左：池の周りに置かれた丸太、 右：整備された池に至る道。

11月15日はとがち・市民環境交流会が開催され、エゾリスの会も活動の様子を展示で紹介しました。私が写した写真も多数採用して頂きました。また、SさんとIさんが作成されたすばらしい動画も紹介されました。エゾリスの会の展示には長い時間立ち止まって見てくださる方が多かったように思いました。帯広を離れられたかつての会員さんも見に来て下さいました。



左：前日の準備作業、 右：当日の展示の様子。

12月7日は朝9時から鳥類調査がありました。集合時の気温はマイナス2℃でしたが日差しもありそれほど寒く感じませんでした。集まったメンバーが6名だけだったので、2名ずつのグループに分かれて20分おきに調査を行いました。私は最初のグループでした。ハジブトガラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、カケス、アカゲラ、ヒヨドリ、ハシブトガラスなどが観察されましたが数は少なめでした。



左：1班リーダー、Sさん 右：さまざまに鳴き分けるカケス。

12月14日は今年最後の活動として、朝9時から観察小屋と巣箱の掃除を行い、その後皆で持ち寄った食材を焚き火で料理して食べました。エゾリスの会では忘年会のことを望年会と呼んでいます。

正午頃から雪が降り始め、望年会の片付けが終わった3時頃には大雪になりました。

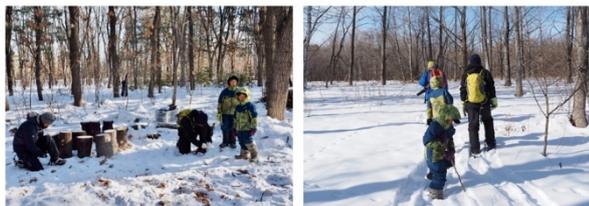


左：調査小屋の窓拭き 右：望年会で焚火調理中。

1月18日は今年最初の間伐が行われましたが、私は風邪気味のため欠席しました。

1月25日には鳥類調査が行われました。低温のせいか鳥の出現は非常に少なかったです。私が入った2番目の班では、ハシブトガラス、ハシボソガラスなどのカラス類、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシボソガラなどのカラ類、コゲラ、アカゲラ、カケスなどを散発的に見ただけでした。第3班ではノスリやウソなど

も見たそうです。お父さんに連れられて参加した2人の小学生君たちも元気に歩き通してくれました。



左：集合時の様子、 右：第2班による調査中。

2月15日には今年2回目の間伐が行われました。樹齢40年ほどのチョウセンゴヨウ1本と生育途中で枯れたブンゲンストウヒを伐採して片付けました。8歳と5歳の子供たちも参加し、あまり疲れないほどに楽しく活動を終えることができました。



左：伐採後の枝落とし、 右：休憩中。

3月8日は帯広の森はぐくむで、森の文化展でのエゾリスの会の展示の設営をしました。展示に使うパネルや写真は去年の11月15日に十勝プラザで行われた環境交流会で展示したものと同じです。いろいろな場所で多くの人たちに見てもらうことは良いことと思います。森の文化展でのその他の展示も素晴らしいものでした。展示は3月22日までの2週間でした。



左：森の文化展会場、 右：エゾリスの会の展示。

3月15日は今年の冬3回目の間伐をしました。第2柏林台川の谷の上の大きなチョウセンゴヨウを1本伐採しました。谷際での間伐はこの7-8年かけて少しずつ

つ進めています。森が明るくなり、在来種の広葉樹の生育が促進されているそうです。1本目の間伐終了後、巻き枯らし区で倒れたチョウセンゴヨウの枝払いと片付けも行いました。大人9名、2家族の子供たち4名で楽しく作業を進めることができました。



左：右側の高い木を伐採、 右：伐採した木の片付け。



左：休憩中、 右：巣になったチョウセンゴヨウの枝葉。